

○第1回遠野市部活動検討委員会議事録

5 議事

(1) 説明

1 質疑

現在の部活動は中体連の大会を軸にして取り組みをしているが、大会前などは時間を延長して活動しており、教員の負担も大きい。大会前の土日は練習試合を設定している場合が多いことから、地域移行はちぐはぐな印象を感じる。中体連が地域移行に向けてどのような動きをしているのか、もし把握していれば教えてほしい。

⇒ 中体連の大会に参加について、クラブチームで参加できますという情報ははいっているが、詳細については把握していない。

(2) 意見交換（各委員からの意見）

1 遠野市PTA連合会 会長 多田 宜史 委員

現段階では来年度の土日のみ地域移行するというスケジュールだが、将来的な平日の移行まで視野に入れて協議すべき。3～4年前くらいに、各スポーツ団体に地域移行した場合に受け入れ可能かという調査があったように記憶している。私は遠野弓道会の事務局をしているが、遠野弓道会にも調査案内が来たから間違いはない。そのデータがあれば、ある程度の見当は付けることが出来ると思う。

現在、遠野中学校では、日曜日は完全に部活停止なので、現実的には土曜日に地域のスポーツ団体と合同で活動することになると思う。土曜日と言っても24時間あるわけで、その中のどの時間帯に活動するかが重要。スクールバスなどの通学手段を考えると、できれば活動時間は統一したいところ。社会人は日中に活動しづらいから、土曜日の夕方もしくは夜の活動が現実的だと思うが、これに対応できるスポーツ団体がどれほどあるか。もしくは日曜日の日中の方が都合がよい団体もあると思うが、通学の便を考えるとどれかに統一した方が良く思うし、ある程度の方針を出してそれに対応できる団体を募るのが良いのではと思う。

また、指導者への謝礼の補助も気になっていると思う。どれほどの予算を確保しているか現段階の見込みで構わないので具体的な数字を示してほしい。

それと、実際に運用するためには窓口を明確にする必要があると思う。その窓口も受け身ではなく、補助金の紹介やコーチの斡旋等、積極的に各スポーツ団体に情報提供してほしい。その情報次第で地域移行を受け入れる団体が増えるのではと予想する。

今後、平日まで地域移行が進んだ場合のことをお話しすると、水泳に関しては既に令和4年度から市内中学生向けの特設水泳部を立ち上げて活動している。水曜日と金曜日の週2回、16時30分～18時の時間帯で活動している。どうしてもコーチが間に合わないので16時30分から30分はプールサイドでダイナミックストレッチや筋トレをして過ごし、コーチが到着する17時からの一時間スイム練習をしている。中学校の部活動の時間に合わせてこの時間帯に設定したが、コーチも仕事をしている関係上、やはりこの時間に間に合わせるのはなかなか大変。他の職業の方が同じことをするのは難しいのではと思う。例えば部活動を17時30分～18時30分にして、部活開始までは学校で宿題をするなどの時間の使い方をするのが良いのでは。部活までの宿題タイムに勉強を教える人を配置すれば、学力向上と一石二鳥をねらえるのではないか。

いずれにしろ、子供に係わる大人が増えることが、子供たちにとって多様なライフスタイルを知ることにつながり、様々な経験を促し、視野を広めると共に地域愛を涵養し、将来的にふるさと遠野へ帰る動機づけをすることができると考えているため、多くの大人に係わる部活動の地域移行は一日も早く行うべきだと思っている。

2 遠野市中学校体育連盟 会長 堀村 克利 委員

上部団体の県中体連等の方針がこれから示されると思われるので、その動向を注視しながら進めていく必要があると感じている。今回は中学校の部活動の地域移行に係る議論であるが、高校は対象となっていないので高校がどうなっていくかも気にかかる場所である。

遠野中学校では、サッカーの部活動やシニアの野球のクラブチーム等に加入したいために指定校変更を行い遠野中学校に入学している生徒もいる。

遠野中学校にしかない部活動もあり、学校の枠を越えて活動できるような環境づくりが出来れば良いなと私見ではあるが思っている。

指導者の部分の在り方とか資格とかしっかり規程されているスポーツもあるので、様々な要件を検討していかなければと思いつつ、具体的なプランニングをしていくことが必要だと感じている。

3 遠野地区中学校文化連盟 会長 新井野 邦夫 委員

生徒数が減少していく中で部活動が成り立たない状況が西中学校でも出てきており、今回の新人戦においてもバレーボールにおいて遠野中学校と合同チームで参加した。これが今後加速していくと思われ、10年後の遠野市の中学生の人数が何人なんでしょうと想定した時に、東中学校に入学しようが遠野中学校に入学しようが西中学校に入学しようが、どこの中学校に入学したとしてもある程度、同じように部活動を実施できる機会が与えられる。さっき堀村校長先生から話があったようなサッカー部に入りたいために遠野中学校に入学するような、つまり格差が生まれず、どこに住んでいようが自分が希望する部活動が出来るといふようなシステムの構築が必要だと感じる。

ロングスパンで考えていかないと近視眼的に、ただただ地域移行だけで考えるとトラブル続きで上手くいかないのではないかと感じる。スポーツのレベルとして、ある程度高いレベルで競技をがんばりたいという部活動があってもいいし、生涯スポーツとして競技を楽しみたいという部活動があってもいいし、多様な選択肢があってもいいと感じる。

中体連だと大会があつて勝敗が付くこととなる。活動をしている生徒の中には得意な子もいればそうでない子もいる。同じように目標に向かって取り組んでいかなければならない部分があるのでその辺も考えていかなければならないのかなと感じる。

私が30代の半ばの頃にオーストラリアの中高一貫校で1年半勤務したことがある。オーストラリアでは部活動は一切ない。15時10分に授業が終わると生徒も先生も一斉に帰宅する。生徒たちはそれぞれの地域で自分のレベルにあったスポーツクラブに参加し活動している状況であった。このような取り組みは理想だなと感じ、日本もいつかこのような風になるのかなと感じた記憶があるので、ぜひそのような要素も考えながら検討してほしいと思う。

4 遠野市校長会 代表 佐々木 誠 委員

様々なご意見を伺って、なるほどなという所も思いますが、まずこの国が示した方針の休日の部活動から、段階的に地域移行していく考え方というのが第一に教員の負担軽減という視点での方針なのかなと思います。ただ私たち教員の立場からすると、子どもたちからの視点を考えたときに、はたしてどうなのかなという所でギャップがあるなと思ってました。

国から県には中体連の大会に参加について、クラブチームで参加できますという通知がでていますが、それを県ではどうするかという所を検討していると思うのですが、私も保体関係で繋がりががあるので情報を集めているところですが、中体連だけでは動けないと、やはり様々な体育関係の組織が点で一つになって動かないと、中体連独自では動けないという話でした。

ですので恐らく県として、県中体連としてこうしたいという考え方は、まだまだ先になると思います。そういった中で国が示した令和7年度末までを目標にして休日の地域移行と考えた時には、なかなか最初からいい形で整えた環境でスタートするのは難しいだろうと感じています。

可能性としては、モデル的なものでやりながら良い方向に持っていくというスタンスでなければ当然、始めれば課題も見えてくると思いますし、予想される課題もあり、想定外の課題も出てくると思いますので、そういう形でしか進められないのかなと思います。

ただ教員の働き方改革もそうですが、子供たちのことも考えてあげないと何のためにやるのかという所がぶれてくるのかなと思いますので、そこは大事にしていかなければならないのかなと思います。

東中学校も人数は多くありませんので、この先、部活動のチームが組めないという状況が出てくると思います。そうなった時には合同チームという考え方になりますので、そこも含めて考えていかなければならないという所は思っていました。

5 遠野市体育協会 会長 熊谷 義弘 委員

体育協会として窓口はもしかしてやらなければならないのかなということは感じておりました。

今、色々お話を聞いて、新井野先生が疑問を呈したことについて同じことを思っていましたし、多田委員さんがまとめと課題を全て言ってくださいました。それに尽きるような気がします。

この改革には教員の負担軽減の目的があるのかなと、ただ、部活を否定する訳ではないので、その辺で矛盾がでてくるのかなと感じます。新井野先生がおっしゃった外国の例が一番すっきりするのかなと思って聞いてました。

事務局も大変だと思いますけど、子供たちのために良い環境を整えてやっていかなきゃならないので、共に知恵を出し合ってやっていこうと思います。いずれ地域に移行された時に事故があった時は大変なことですけども、土日は地域ということで明記されておりますので大会の際には、学校の先生か地域の指導者かどっちが引率してもいいと思いますけど、責任のことを考えてしっかり良いものを作りあげていけたらなと思います。

6 遠野市芸術文化協会 会長 新田 光志 委員

私が普段関わっている文化芸術の視点から見ると最初に思ったのが、先生方の休日の確保が前提にあるのかなと一瞬よぎりました。中学生となるといろいろな事を吸収する年代でもあるし指導者の教え方によっても全く真逆の方向に行く可能性もある。

吹奏楽に関しては、スポーツの各ポジションで指導するのと違って指導者の力によって色が付いてくる分野だと思います。一つの曲を作るために先生の指導を受けてみんながまとまっていく。例えば学校の先生が忙しくて地域の方をお願いしますとなると戸惑うのは子供たちだと思うんですよ。

誰の言うことを聞けばいいのだろう、どういう楽器を演奏したらいいのだろう、どういう歌い方をしたらいいのだろう。それが文化芸術分野で見えてくるような気がします。

そういった戸惑いの観点から子供たちのことを考えると、できるだけ文化芸術分野に関しては、同じ指導者が子供たちを見ながら育てていくというのが、私から見れば理想なのかなと思います。

先生方の負担もあるかもしれませんが、普段やっている目線で見ると強く感じました。

7 スポーツ少年団指導者協議会 代表 菊池 長悦 委員

スポーツ少年団は体育協会の組織の一部となっています。スポーツ少年団が市内には30弱の団体があります。もちろんスポーツ少年団の指導者も大いに関わっているわけですが、指導者も各団体2人程度から6・7人の団体もあり、当然、団体によって差もあります。スポーツ少年団自体も30弱の団体の内、三分の一位は中学生の部活と並行しているような少年団、後の三分の二は小学生主体のスポーツ少年団です。内容を見ると中学校のスポーツ少年団の多くは宮守地域にあるということが見受けられます。

少年団の指導者というところから見ると、私も指導者で仕事は退職しているので、いつでも時間は取れますが、指導者は働いている方が多いということから、土日を主体とした活動であれば関わ

れる方が出てくるだろうなとことは想定されます。平日だとやはり夜の指導ということになると思います。

今、日本スポーツ少年団では、指導者の底上げのためにスポーツの理念の方を中心とした方向で子供たちを育み導いていくという勉強をするということで、スタートコーチ制度というのがあります。

従来のスポーツ少年団の養成講習会からスタートコーチ制度の養成ということで、従来一度資格を取れば更新とか或いは講習会とか受ける必要な無かったんですが、これからは、スタートコーチの資格を取ると4年に1回は更新講習を受けなければならない。或いは、指導者としての登録料が発生するというようなことで、指導環境もだいぶ変化してきている現状の中で、今の指導者がどのような対応をしていくかが懸念されます。指導者が少なくなるんじゃないとか或いは支援なりが必要になるのではないかとか思います。スポーツ少年団の指導者の環境も変わっているということもご理解いただければと思います。

それから、多田委員から話題がでた総合型地域スポーツクラブ NPO 法人オヴェンセについては私が代表をやっております。オヴェンセでもスポーツとカルチャーを融合させた形で取り組もうとした目的の下にやっているのですが、メンバーは働いている人たちが多く。水泳に関しては施設で働いている方が、プライベートな時間を活用して指導にあたっているという状況にあり夕方でも対応ができております。

オヴェンセでは今、色々な課題がある中で中学校の部活動にも対応できるよう検討していこうと話をしている所です。

8 岩手県教職員組合花北遠野支部 書記次長 藤澤 俊介 委員

教員の負担軽減という点では、やっぱり平日も土日も関係なく教員も生徒と一緒に活動しているので出来るだけ子供たちに良い思いをさせたい、成就感を持たせたいと思ってやってくださっていると思う。

土日だけ切り離されても現場としては困ると思う。平日の練習の成果をどのように子供たちが試合で活かして、それをまた平日の活動に繋げるというパターンで指導なさっていると思う。地域の方といくら連携しようにも、地域の方に気を使ってしまって、ぎくしゃく感が出てしまうことが想定されると思います。

指導したい先生もいると話題に出ましたが、正直言えば生徒のことを考えるので指導しなきゃならないなと思う先生もかなりいると思います。教員という職業を選択している方たちは、生徒と一緒に活動して喜び合いたいと思ってやっている。中には指導したいと思っている方もいると思います。私も指導したいという立場にあるが、しなければいけないと感じて結局は、先生たちが選択したでしょうと、だから土日やっているのは、自分でやっているよねとなりかねないというのが正直で、日本人の特性なんだと思いますが、みんながやっていたらそうなるし、やっぱりこうしなきゃいけないよなという所で自己選択が出来ない可能性が高いと思います。

先ほどオーストラリアの話がでましたが、私も海外に居たことがあるのですが海外では時間によってきっちり分けられています。この時間になったら帰ってください。この時間からは保護者の責任です、ここからはクラブチームの責任ですという風にはっきりと区分けしています。

保護者もこの時間からは、学校の責任では無く自分たちの責任だということで、それを放棄してしまうとネグレクトという事で警察に捕まってしまうので、そういう所は厳しいなど。

日本とは違って情の部分で軽薄だなと感じる部分はあるんですけども、みんなでそれぞれ責任を持って子供たちを見ているという点では、見習うべき点かなと思います。

そこで、私は今の既存の部活動を維持するのではなくて、この機会をチャンスだと捉えて今まで無かった部活動、例えば e スポーツだったり、将棋や囲碁だったり、いろいろな可能性があるように感じる。逆に受入団体を先に探した方がおもしろいのではないかと感じます。

既存の所を維持するのも大事ではあるが、実は子供たちが選択肢に無いからそれを選んでいだけで、選択肢がたくさんあれば、これやってみたい、あれをやってみたいという可能性を秘めているような気がします。だから既存の部活動を維持するありきではなくて受け皿の団体がどのような

ものがあるかというのを調べていただいて、子供たちに出来そうな活動を今日のような会議で選定し提示する方法もあるのでは。

今後は各中学校の生徒数も減る方向だと思うので、本当に不平等なことが無くどの中学校でも選択できますよ、スクールバスを活用できますよということになれば地域格差も無くなるし、そうなれば合同チームという発想も消えていくと思います。遠野市の部活動ということになれば先生方も地域の方々も一つの学校よりは参加しやすいのかなと。そうなれば恐らく自然に地区の大会は消えていくんじゃないかと思います。

地域でスポーツを育てるという観点だと、皆さんが関わりやすくなるので先生たちも都合の悪い時も頼みやすくなると感じる。勝ち負けがあるので結構ぎすぎすする気がする。

その部分が段々消えていって、子供たちに様々な競技の機会を与えたり楽しさを教えられるのかなと。実は大会に勝つという目標が消えるだけで、先生方も生徒もだいぶ負担が軽減されるのではないかと思います。

アメリカでは、リトルリーグのルールが素晴らしくて12人で全員出さなきゃならないルールがあり、みんなで全員試合を楽しんでいる。日本にもそういうふうな雰囲気があっているのかなと。私も一回リーグ戦をやったことがあるが、子供たちは決して気を抜きません。トーナメント戦ではなくリーグ戦でも勝っても負けても何試合もできるという感覚を日本も身に付けていった方がいいのではないかなと感じる。

例えば県中総体には遠野市で合同にしたチームを出場させればよいだけで、もっと遠野の子供たちの結束力が強くなって活躍する場が増える気もします。

あと別な提案となりますが、季節によって部活動を変えてしまうこともあるのでは。例えば冬だったらスキーやスケート、夏だったら野球やサッカーというように。生徒数が減少していく中で色々な受け皿がある中で季節によって種目を変えることによって、子供たちも選択する機会が増えるし指導者も休むことができるのでは。

他の国だと複数の種目で活動しているケースもある。教員としては既存の部活動を守るというよりは新しいシステムの中で自分たちの働き方改革をしつつも、子供たちと関わっていく新しい道を模索していく所で協力していきたいなと感じております。

10 遠野市教育委員会 教育部長 伊藤 貴行 委員

9月の市議会の際にも複数の市議会議員から部活動の地域移行に関する一般質問がありました。答弁では早めに遠野市なりの課題を抽出して検討したいということで今日の会議となりました。たくさんの方のいい意見をいただきましたし、事務局で気づいていない課題もたくさん出されましたのでその辺を整理していきながら次回の会議までに揉んで新たな提案の準備ができればと思っているので引き続きよろしくお願いたします。

11 遠野市教育委員会 学校教育課長 佐々木 淳一 委員

今、部活動指導員を各中学校に配置しています。国の文科省の方でも概算要求の段階で増員を見込んでいるようなので、これが県を通じて市町村にどう下りてくるかは現時点で分かりませんが、地域の方に今以上に指導員として参画していただけるような方法をここ数年とっていければいいなと考えております。

今日、話題になった通り今ある部活動を移行するというよりは、部活動が無くなったらどう組み立てていくか、子供たちの放課後の過ごし方、個々の興味や関心だとか本当にやりたいことをどう実現していくかというところで皆さんのご意見を頂戴しましたので、どうスライドしていくかというスケジュールとなっておりますが、例えば部活動が無くなってどうやって組み立てていったらよいのかなと「遠野ならではの」出来ればと思います。児童や生徒数もどんどん減少していますので各学校でチームを維持するのは大変になっていくので、今日のような意見は本当にありがたいことだなと感じたところであります。引き続き色々な所でのご検討をお願いいたします。